

周縁的社会集団と近代 —日本と欧米におけるアジア史研究の架橋 Kick Off ミーティング(第2回個別セミナー)

日時:2017年12月21日(木) 17:00~20:00
会場:大阪市立大学 学情センター1F 文化交流室

このたび、平成29年度日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に、本学文学研究科(日本史・東洋史・西洋史)企画の「周縁的社会集団と近代—日本と欧米におけるアジア史研究の架橋」が採択されました。本事業は、アジア諸地域における周縁的社会集団が、ヨーロッパ帝国主義の下、近世から近代への過程でどのように変容したかを、「排除」と「包摂」の経験に焦点をあて、世界的な視野で解明することを目的としています。

まず、主担当研究者である塚田孝教授が本事業のねらいとその研究上の意義について語ります。さらに、本事業最初の派遣若手研究者である守田まどかさん(UCRC 研究員・東京大学 DC2)には、自身の研究内容を紹介する報告をしてもらいます。オスマン帝国の首都であるイスタンブルについて、17~18世紀の「街区」に注目しつつ、都市に流入する周縁的社会層に対する排除と包摂の具体相を明らかにしてもらいます。

また今回のイベントにはゲストとして本事業の海外連携者であるシンガポール国立大学(NUS)のティモシー・エイモスさんと上海大学の張智慧さんも参加され、この共同研究に期待するところを語っていただきます。

参加は自由です。アジア史や都市社会史に関心をもつ多くの皆さんの参加をお待ちしています。

塚田 孝 (大阪市立大学大学院文学研究科・教授、頭脳循環プログラム代表)

「頭脳循環プログラム「周縁的社会集団と近代」のねらいと構想」

守田まどか (大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター(UCRC) 研究員)

「18世紀イスタンブルにおける社会変容と街区共同体」

連絡・問い合わせ先

頭脳循環プログラム「周縁的社会集団と近代」事務局

佐賀 朝 (UCRC 所長・文学研究科教授) E-mail: CYI03126@nifty.ne.jp